

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100246		
法人名	有限会社あおき		
事業所名	グループホームあおき園2番館		
所在地	宮崎市山崎町佐牟田1409-2		
自己評価作成日	平成23年1月2日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100246&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宮崎市中心部から東へ少し離れた、神話にも出てくる地名がある地域にある。伝統のある地域行事や消防等の自衛組織、先祖伝来の土地での農業、園芸といった生業が、強い絆で結ばれたコミュニティを生み出している。この地域における唯一の福祉施設として、開業以来3年間、利用者と事業所が、地域と十分に交流を深めながら、地域の中に受け入れていただけるよう常に努めている。利用者の尊厳を最重要事項として、生活歴を活かして一人ひとりの生活を健やかに過ごされる事に力を入れている。食事や入浴、レクリエーションには、楽しみを持てるよう十分に工夫している。職員に対しても働きやすく、いつまでも長く勤務できる体制作りをめざし、職員と利用者とか家族同様の雰囲気の中で穏やかな生活をお過ごしになれるよう、日々研鑽を積んでいきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者の思いの下、職員は利用者の意向や希望を重視し、利用者主体の生活を送る支援をしている。地域に密着した生活を送るために、運営者自ら自治会へ加入し、消防団と連携しながら地域との交流を日常的に図ることができるよう努めている。医療面においても24時間の体制づくりに努めている。また、職員が働きやすい環境が作られ、寄り添うケアの下、利用者は心穏やかにゆったりとした時間を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感性を生かす、安全安心な環境作り、地域とのふれあいの場を持つ管理、尊厳を守る」ことを理念として、玄関や視界に入る場所に掲示している。また、便りにも記載している。	「感性を生かす、地域とのふれあい、尊厳を守る」という理念が職員に周知され、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭りや花火大会、地区恒例行事の野焼き等にも運営者自身が参加している。地区の秋祭りでは、神輿がグループホームに立ち寄り、利用者の方々に楽しんでもらう予定が組まれている。	管理者が地区の自治会に加入し、地域の行事や消防団の活動に参加している。ホームとして、日常的に地域と密接なかかわりを持つよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長や公民館長に参加いただいている運営推進会議にて、「認知症を理解する資料」や「認知症の方を支援する地域の資源や相談窓口の資料」を配布し、説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、公民館長、消防団の方、歯科医、地域包括支援センター、運営者、職員等の多くがかかわり、ホーム内の説明や地区の行事、災害時についての話し合いが行われている。	会議には自治会長や公民館長などが参加し、活発な意見交換がなされている。地域からの高齢者の相談もあり、研修会等も行っている。また、地域の災害のためのAED(自動体外式除細動器)も設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からのFAXには必ず全員が目を通し、情報交換を通してわからないことがあると、市役所に出向き相談をすることで、行政との連絡を綿密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市からは定期的にFAXで情報や案内が送付されている。ホームからは随時、感染症対策や医療体制の相談へ出向いて協力関係を築き、サービスの向上につなげられるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11項目の「介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」を、相談室及び廊下に掲示し、職員がいつも意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルが作成され、「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」も各場所に掲示してある。職員も意識してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、管理者や職員が学ぶ機会を研修等で持ち、高齢者虐待の具体例を相談室や廊下に掲示して、常に高齢者への虐待が見過ごされることのないよう意識させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日本社会福祉士会の権利擁護組織「ばあとなあ」に所属し、実際の成年後見実務経験を職員に研修することで、権利擁護に関する制度の理解と必要性及びその活用方法を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結においては、契約者やご家族が理解しやすいように、契約書や重要事項説明書の一文一文を丁寧に読み上げて、疑問点がある場合はさらに詳しい説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に相談等を聞いている。ホーム内に苦情箱を設置しているが、現在まで意見が入った事はない。行政に第三者相談窓口があることも園の内部に掲示して知らせている。	家族からは、医療に関する相談が多く、来訪時に相談を受けている。受けた相談は、業務日誌で職員に周知され、そのつど改善し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会において、運営に関する職員の意見を広く求めるとともに、管理者は常にいつでも、率直な職員の意見を聞く心がけている。	毎月の定例会で運営に関する職員の意見を求めている。年に3回は運営者と職員1対1の話し合いを持ち、職員意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に職員の勤務状況や個々の努力の把握を行い、給与面や福利厚生面においても、各自がやりがいと向上心が持てるような職場環境を整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもちろん、外部での研修には全職員が参加できるよう勤務調整をしている。復命書は、全職員が閲覧できるようまとめてあり、必ず目を通して捺印するようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別ホームと作っている連絡協議会や交流等を深めたり、勉強会を定期的に行うことを通じ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者・家族と話し合いの機会を多く持ち、家庭環境や生活歴を把握している。来訪の機会を通じ、他入居者ともなじみの関係をつくり、安心してサービス利用ができるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の基本情報を作成する際には、家族の状況や既往歴・生活歴を把握しながら、ご家族が抱える困難事項の課題分析に努め、問題意識を共有し、その解決に共同で取り組むことで、お互いに信頼関係を築きあげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の必要な支援について、介護保険や医療保険だけでなく、障害福祉サービスの地域生活支援事業等、他の制度のサービス利用も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意分野で力を発揮してもらうことも多く、畑に行って作物の採り方や育て方を教えてもらったり、一緒に過ごす中で学ぶことも多く、支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に情報交換を行い、医療機関に同行したり、グループホーム内でご家族に入浴介助をしていただいたり、一時、ご自宅に帰宅していただいたりして、共に利用者を協力し合って支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会にいつでも気軽にこられるような職員の接遇に努めている。また、年に数度、山奥の故郷にドライブに行ったり、馴染みの釣り場に釣りに行ったりしている。	なじみの方の来訪や差し入れ等がある。数時間自宅に帰り、なじみの方と接したり、なじみの釣り場へ行ったりと、関係が途切れないよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を、女性利用者同士で声を掛け合いながらたたんだり、フキンを干したりして、共同で作業する機会をつくることで、仲間意識と係わり合いを増すことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院による退所により、サービス利用(契約)が終了した場合でも、医療機関からの情報を基に、必要に応じて本人や家族を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を多くし、そこからみられる言動から本人の希望や意向を把握し、思いに沿った暮らしができるように努めている。困難な場合には、本人や家族に確かめながら検討している。	利用者主体の対応に努めている。利用者からの希望に沿えるよう介護計画にも盛り込まれ、思いに沿った暮らしができるよう管理者、職員ともに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からさまざまな情報を収集し、これまでの生活歴により、その利用者らしい生活の把握に努めている。また、それらを記録し、職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーを中心に、サービス担当者会議を開催し、モニタリングを行いながら、職員が利用者の一日の過ごし方や残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報の中から、家族や本人の希望を聞き入れ、よりよく暮らすための課題とケアのあり方についてのサービス担当者会議を設け、意見を出し合い介護計画を作成している。	モニタリングは毎月行い、3か月に1度は家族も参加したサービス担当者会議を設け、介護計画の見直しを行っている。家族の希望、本人の希望が盛り込まれ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の介護の中で気づいたことを、さらに良いケアにつなげていく為に、職員間で検討しながら介護計画に盛り込んでいき、日々見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が安心して生活を送る為に必要な支援を、介護保険サービスを中心としながらも、障害福祉サービスとの併用等、他の社会福祉サービスや社会福祉の資源の活用を常に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を支える地域資源として、地域の子供会や消防団、馴染みの肉屋、商店、理容院、歯科医院等との連携により、利用者が安心して豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みの医療機関があれば継続的な医療が受けられるよう支援し、かかりつけ医による定期的な往診と24時間対応を行っている。家族と連携を取りながら支援している。	本人、家族も納得した協力医の往診が週2回行われている。本人や家族が希望するかかりつけ医の受診も定期的に行われ、24時間体制の医療が提供できるような体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に配置した看護師が連携の中心となって、かかりつけの主治医が定期的な往診及び24時間対応できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に往診に来ていただく医療機関が、在宅時医学総合管理料の施設基準を満たしており、24時間体制のみならず、利用者の入退院についても管理いただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急の医療体制に備えるための24時間対応の訪問看護センターとの契約の準備や家族と協力して、重度化に対応するための合意の準備を順次行っている。	24時間対応の訪問看護との連携や体制作りに取り組んでいる。方針は職員と共有しており、連絡体制等の確認もでき、チームとしての支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を確認しながら、ホームが対応できる最大の支援について職員と話し合い、方針を定め、その方針を本人や家族に説明・共有する取組がなされることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、火災事故に対しては定期的な総合訓練(通報訓練・消火訓練・避難訓練)を行い、利用者の急変に対してはAEDの設置と緊急事態の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に消防団の方にも参加を呼びかけており、災害時の避難訓練や勉強会を開いている。消火器の設置場所を壁に貼り、職員だけではなく、利用者や家族、訪れる地域の方々にもわかるように日ごろから取り組んでいる。	年2回の消防訓練を行い、日常的な消防団との協力体制を築いている。夜間対応の訓練の実施や地域との関係作りも図られ、日常的に災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いに沿えるよう、言葉かけや対応記録等の取り扱いに気を配っている。大勢の中での食事が困難な方には、少し時間を遅らせて、その人の誇りを損なわないような対応もしている。	職員は、利用者一人ひとりの意向を尊重し、言葉かけや配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間、食事の時間、入浴時間といった日常のスケジュールの中で、利用者の表情や全身での反応を観察しながら、利用者が自己決定して生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れは決まっているが、一人ひとりのスペースを大切に、利用者の健康状態を考慮しながら希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、利用者の好みの髪型を馴染みの美容室で整えたり、服装をおしゃれにしたりと、利用者の希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合った方法で、職員と一緒に準備や後片付けを行っている。職員は利用者との会話を楽しみながら食事をし、さりげなく介助や見守りを行っている。温かな雰囲気ですべてを行っている。	利用者と職員と一緒に準備や後片づけを行っている。職員は周りから利用者や会話したり、さりげない援助や声掛けにて見守り、利用者は楽しみながらの食事ができているが、職員と同じ食卓を囲む体制にはなっていない。	利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを食べることは、食を楽しむためにも大切だと思われる。利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には十分気を配り、食事やおやつの際にも声かけし、つぎ足している。食事でも利用者の体調を考慮してバランスの取れたメニューとなっており、新鮮な物や季節の材料を多く取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアの重要性を認識し、本人の習慣や残存機能を活かしながら、食後の口の中を清潔に保ったり、うがいの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のリハビリパンツやオムツ利用を極力減らしている。可能な限り利用者が自力で排泄する支援を行い、生きる意欲と利用者本人の自信を保つよう、根気強く取り組んでいる。	排泄チェック表を利用し、オムツの使用を極力減らした対応が行われ、利用者の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの健康管理、情報管理をかりつけの医師や職員の看護師、介護職員が共有し、できるだけ自然排便を促すよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2つの班に分けてあり、入浴は1日おきに行っている。気分や体調などによる入浴日変更等にも柔軟に対応している。	1日おきの入浴ではあるが、職員は利用者の状態に応じた臨機応変な対応を行い、一人ひとりの希望やタイミングに応じた支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの日常の運動量や疲れ、食欲やバイタル等の情報を分析して、利用者が健やかに暮らせるよう、睡眠や休息時間をしっかりと確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの既往歴や服薬情報を職員全員がしっかり頭に入れている。薬の目的や用法については、定例会等の勉強会で日々研修を行い、服薬後の利用者の状況を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やカラオケ、折り紙での小物製作や園芸や釣り等の園外活動には、利用者の力量にあわせた支援を行い、楽しんでもらえるような配慮をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣で育てている野菜を取りに出かけたり、近所を散歩したり、さまざまな支援方法で対応を行っている。また、希望や声かけにより洋服や雑貨などの買い物に出かけたりしている。	近所の畑へ野菜を取りに出かけたり、利用者の希望に応じ映画館へ出かけたりする外出支援が行われている。散歩や故郷へのドライブ、買い物などの日常的な外出支援もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常生活を送る中で、自己判断で使える金銭を所持し、その管理を個々人の金銭管理帳簿により行っている。自分はお金を持っているという安心感を利用者は持つことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や1年の節目の日、ご家族にお祝い事があるときなど、利用者が電話をしたいとき、また、ご家族が電話をかけてきた時に、プライバシーを考慮しながら、電話の使用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も掃除が行き届いていて、採光にも配慮している。花瓶には季節の花が生けてあり、共用の空間も各所にソファが置かれ、利用者が親しみやすいキャラクターを置いている。居心地よく過ごせる工夫をしている。	共用空間は日当たりもよく、さりげない飾りつけや各所に座り心地のよいソファも置かれている。利用者は、食後などそれぞれが居心地のよいところで穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が共同生活をする空間に、様々な工夫をこらして、リビングや中庭デッキ空間にソファやベンチを配置したり、掘りごたつのある畳スペースを設置して、利用者が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを好む人、安楽いすを好む人など、本人や家族と相談して取り入れている。飾り物や家族との写真など、落ち着いて過ごせるよう家庭からの持ち込みをお願いしている。	居室には、利用者の好む飾りつけなどが行われ、日常的に使われているいすなどが持ち込まれている。また、家族などの写真も飾られ、居心地よく過ごせる配慮や工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の日常生活や身体残存能力を考慮して、手すりの位置や靴を履くときに座るベンチ、洗濯物をたたむときの高さにあわせた畳スペース等、利用者が健やかに過ごせる支援をしている。		